

科目名	地域文化論		英文表記	Regional Culturology		2017年3月25日	
科目コード	4019						
教員名:下郡剛 技術職員名:						作成	
対象学科/専攻コース			学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態
全学科			4年	必	履修	1単位	講義
科目目標		沖縄地域社会の理解を目的とし、沖縄の文化・歴史・地理風土などについての認識を深める。Ⅲ－C					
総合評価		定期試験にて評価する(但し評価の対称は、授業への取り組みも含むことがある)。					
科目目標達成度	目標割合	科目達成度目標	達成度目標の評価方法	ルーブリック			
	###	① 現在の沖縄地域社会の成り立ちの直接の前提となる沖縄戦についての理解を深める。(C-1)	正しく説明できるか定期試験で評価する。	理想的な到達レベル 現在における沖縄戦認識とそれを扱うメディアの個性を理解した上で、沖縄戦の軍事史的側面・住民被害の側面・さらに社会的問題となっている集団自決問題の関係を総合的に理解できる。	標準的な到達レベル 現在における沖縄戦認識と、沖縄戦の軍事史的側面ならびに住民被害の側面の関係を総合的に理解できる。	最低限必要な到達レベル 沖縄戦の軍事史的側面ならびに住民被害の側面の関係を総合的に理解できる。	セルフチェック
		②					
		③					
本科・専攻科教育目標		1	2	3	4	〈本科科目目標〉(4) 広い視野と倫理観を備えた人材を育成する	
					◎		
評価方法と評価項目および関連目標に対する評価割合							
		目標との関連	定期試験	小テスト	レポート	その他(演習課題・発表・実技・成果物等)	総合評価
評価項目			100	0	0	0	100
基礎的理解		①	100	0	0	0	100
応用力(実践・専門・融合)							0
社会性(プレゼン・コミュニケーション・PBL)							0
主体的・継続的学修意欲							0
授業概要、方針、履修上の注意		資・史料を提示し、歴史学的方法論を併せて説明することで、科学的・論理的に考える能力を高める。					
教科書・教材		教員が編集したプリント。					

授 業 計 画					
週	授 業 項 目	時間	授 業 内 容	自学自習 (予習・復習)内容	セルフ チェッ ク
1	1年間のガイダンス	2	授業の方針・進め方等についての説明。		
2	教科書問題とメディア論	2	現在における沖縄戦認識の一つとして、教科書問題を取り上げ、問題における大手新聞社の論説を比較検討する。		
3	岩波・大江裁判の法理と報道	2	沖縄戦認識をめぐる、教科書問題の出发点ともなった、岩波・大江裁判判決の法理を理解するとともに、その法理に基づいて、改めてメディア報道の有り様を考える。		
4	沖縄の戦略的重要性	2	軍事史としての沖縄戦の初回として、なぜ沖縄が戦場になったのか、太平洋戦争全体の中での沖縄の戦略的重要性を理解する。		
5	大本営陸海軍部より見る沖縄戦作戦計画	2	軍事史としての沖縄戦の2回目として、東京からの視点で沖縄作戦計画を理解する。		
6	第32軍より見る沖縄戦作戦計画	2	軍事史としての沖縄戦3回目として、沖縄現地守備隊の視点から沖縄作戦計画を理解する。		
7	地上戦の推移	2	軍事史としての沖縄戦4回目として、上記作戦計画を踏まえた上で、実際の戦闘がどのように行われたのかを理解する。		
8	沖縄戦末期、32軍の新作戦計画	2	軍事史としての沖縄戦5回目として、戦線の推移の結果、32軍が最後に策定した作戦計画を理解することで、論点を住民被害問題へとつなげていく。		
9	住民保護問題に関する、政府・大本営の基本方針の策定	2	住民被害としての沖縄戦の初回として、大日本帝国がどのような方針を採用するのかを理解する。		
10	県外疎開の奨励	2	住民被害としての沖縄戦の2回目として、県外疎開問題が生じた背景を理解する。		
11	県内疎開の奨励	2	住民被害としての沖縄戦の3回目として、海上が封鎖された後、県内疎開問題が生じた背景を理解する。		
12	沖縄戦末期、新疎開計画	2	住民被害としての沖縄戦の4回目として、沖縄県で最後に策定された疎開(避難)問題が生じた背景を理解する。		
13	集団自決1	2	教科書問題の直接契機となった集団自決問題を、沖縄本島における事例として読谷村をとりあげる。		
14	集団自決2	2	教科書問題の直接契機となった集団自決問題を、離島の事例として渡嘉敷村をとりあげ、沖縄本島の事例と比較、発生の背景を理解する。		
15	日本国憲法	2	モリウツガリケルム対応、戦争直後で成立した日本国憲法について、特に沖縄が成立した歴史的背景について考える。また政府による憲法解釈変更について考える。		
期末	期末試験	[2]			
16		2			
17		2			
18		2			
19		2			
20		2			
21		2			
22		2			
23	後期中間試験(行事予定で変更可)	2			
24		2			
25		2			
26		2			
27		2			
28		2			
29		2			
30		2			
期末	期末試験	[2]			
学習時間合計		60	実時間	45	
自学自習(予習・復習)内容(学修単位における自学自習時間の保証)					標準的所用時間(試行)
①	授業内容を理解できているのか、各自で振り返る。振り返りができているかは試験にて				各2時間×30回
②					各5時間×2回
③					
備考欄					
<p>(共通記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> この科目はJABEE対応科目である。その他必要事項は各コースで決める。 <p>(各科目個別記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> この科目の主たる関連科目は歴史学概論(2年)、地理学概論(3年)、日琉交流史(専攻科1年)である。社会を歴史的に理解する上で必須の自然環境にも言及するので、地理学分野との関係性も意識して受講すること。この科目は主に近・現代を扱う。前近代については、歴史学概論(2年)、日琉交流史(専攻科1年)にて扱うことになる。 <p>学習時間は、実時間ではなく単位時間で記入する。(45分=1、90分=2)</p>					